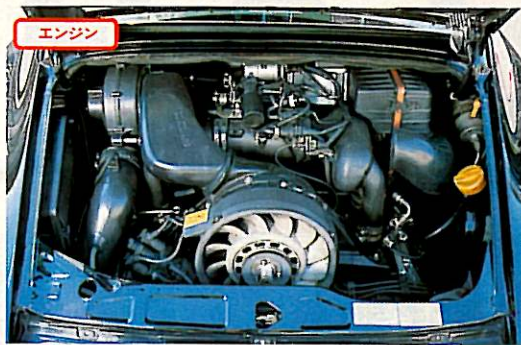




見慣れたエンジンルームはシンプルにして強力

見慣れた911系のエンジンだが、写真のRSはエアコンのコンプレッサーがない。一方、エンジンは排気系とコンピューターのチューンによりノーマル比10psの向上を実現している。

キルスイッチ

バッテリー横にキルスイッチ装備

後ろのオーバーハングに重いエンジンを積む911は、少しでも重量バランスを改善するため、バッテリーなどをフロントに配置する。このキルスイッチは、RSならではのレーシーな装備だといえる。

短命だったが4WDの登場等
新起点となった

モデルのライフサイクルこそ、わずか5年と短かったが、モデルのタイプやボディのバリエーションなどは、決して930や911に負けてはいない。ナローからの流麗なボディを色濃く残したうえで、なおかつ5年の間に何度も手が入り、安心のメカニズムや静粛で快適な車内が実現されているのだ。

1989年2月

964ボディのカレラ4生産開始。排気量3600ccから250psを発揮。そして959の4WDシステムが、新しい911の姿を予感させた。

1990年

964ボディのカレラ2が、高い完成度で登場。964というコードはカレラ4を意味すると思っていたポルシェ・ファンは、RRポルシェの登場に胸をなで下ろしたり、930の消滅にガックリきたり。カレラ4、カレラ2、いずれのモデルもクーペ、タルガ、カブリオレを選ぶことができた。

1991年

964になってから消滅していたターボが、320psというパワーを引っ提げて復活。またワンメイクレース車両のロードゴーイングバージョン、カレラRSも964ボディに加わった。

1993年

911ターボは360psを叩き出す3.6へと発展し、カレラ2スピードスターも登場。5年目にして964モデルはその役目を終えた。

1994年

911カレラ、993ボディをまとって登場。

964ボディの代表 '92カレラRSの魅力に迫る

可変式リア・スポイラー



速度に応じて上下するスポイラー

前後の重量配分で苦しんできた911は、少しでも走行性能を高めるため、空力特性にはことさら積極的に取り組んできた。'73カレラでダックテールを



ヘッドライトあたり

可変式リア・スポイラー



精悍な顔つきを演出する大きなサイズのバンパー

かさ上げされた車体をバランスよく整え、911に新たなスタイルを与えたバンパー。ちなみにRSのフォグはダミー板。



通称"ターボミラー"が'92年よりラインアップ

'78年より使い続けられてきた、通称ビッグミラーに代わり、'92年からは通称ターボミラーを採用。スタイリッシュに。



ホイール

バリエーションのあつた964のホイール

964にはディッシュタイプ、カップデザイン、16inchと17inchが用意されていた。ただしRSはマグネシウムの17inchサイズを著れる。



赤い色のランプが凄みを感じさせる

赤の基調で統一された、RSのテールランプアッセンブリ。左からターン、ポジション&ブレーキ、バックアップランプ、そしてリアフォグランプの順で並んでいる。



不変の5速メーターも、ダッシュボードも、より近代的に見慣れた911のメーターまわりだが、よく見ればひとつのメーターにも、やはり進化のあとが見えてとれる。ちなみにRSではオーディオも省略されている。

メーターまわり



内張りも簡略化されたRSのスパルタンな車内

リアシートは撤去は当然。ドアのオープンナーさえ簡略化されたRSのインテリアは、まさに仕事場のイメージだ。



'92年型カレラRS

エンジン Spec 3500cc 250ps/6100rpm
32km/h 5.9sec/0-100

悲運な、過渡期の911 数々の新技術を生み 993へバトンを渡す

ある意味で、いちばん購入メリットの高い911。'89年、まず先行してカレラ4が登場したとき、多くのポルシェ・ファンは、これが連綿と流れる911の系譜の、次なる伝道者だと信じた。30年以上も連れ合ってきたトーションバーのシャシーに別れを告げ、4WDやティプトロニックという最新メカを新しい伴役に、フルモデルチェンジという呼び声も高く現れたのだ。誰でも、これからは964が新しいポルシェ、と思うだろう。しかし964は、ツナギのモデルだった。新しいテクノロジーを包む、新しい器が間に合わなかったのだ。930ボディのシャシーをかき上げ、エンジン搭載角を水平にして等速ジョイントとトルクチューブを通して、とまあ、成り立ちこそなんともいえない。早晩、テクノロジーと器をより高度にインテグレートしたモデルに入れ替える必然があったのである。もちろん、スポーツカーに熱いシユットウツガルトの一派は、手を抜くことができない。よりインテグレート度の度合いを高めたマシンの開発を急ぐ一方で、存在期間が短い964に、毎年こまめに手を入れた。そもそも964はとて乗りのやすいモデルだった。だから結果的には、トラッドなスタイルに乗り易さが実現された911が完成されたのだ。また、ターボ3・3、ターボ3・6、カレラRS、RS3・8、カッブカレラS用のカレラなど多種登場し、ボディタイプでもクーペ、カブリオレにタルガはもちろんのこと、カブリオレのターボも、そして最終年度にはスピードスターも登場。短いながら、そのモデルライフは百花繚乱のにぎわいだったのである。

